

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：33902  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2012～2015  
 課題番号：24530676  
 研究課題名(和文) 定量的・定性的分析を併用した日本の国際結婚カップルをめぐる家族形成の包括的検討  
  
 研究課題名(英文) Comprehensive Study of Family Formation of Cross-cultural Couples in Japan  
 Combining quantitative and qualitative analysis  
  
 研究代表者  
 竹下 修子 (Takeshita, Shuko)  
  
 愛知学院大学・文学部・教授  
  
 研究者番号：60454360  
  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：2010年の国勢調査外国人個票データを用いて、2005～2010年の外国人による新規流入移動と国内移動の目的地選択を分析した結果、新規流入と国内移動の両方において、国際結婚機会要因、労働市場関連要因、同一民族集住要因のうち、国際結婚機会要因は最小であることと、国際結婚の減少は、三世代同居が多い東北地方への外国人女性の「嫁」としての流入を示す変数の後退につながっていることが明らかになった。このほか、夫トルコ人・妻日本人の国際結婚家族へのインタビュー調査の結果、人的資本と社会関係資本が補完関係にあるコミュニティにおいて、子どものイスラーム教育とトルコ語教育が維持されているという知見が得られた。

研究成果の概要(英文)：We analyze the destination choices of new immigrants and foreign residents moving within Japan in the period 2005-2010, using micro data from the 2010 Population Census. Two major findings are obtained: First, among three theoretical perspectives (effect of labour market conditions, attraction to co-ethnic communities, and spatial distribution of marital opportunities), empirical validity of marital opportunities is the smallest. Second, although there is an obvious distance-decay tendency in internal migration, foreign residents have shown the tendency of dispersal, including suburbanization. We also conducted interviews on Japanese-Turkish families to examine the relationship between social and human capital regarding religious and language education among Japanese-Turkish families in Japan. Even in the families who do not have the advantage of human capital, religious and language education is maintained in the community, where human and social capital mutually complement one another.

研究分野：家族社会学

キーワード：国際結婚 家族形成 移動パターン イスラーム教育 ロジットモデル

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本への外国人の流入は、1980年代後半のバブル経済期に活発化した。景気が後退局面に入った1990年代以降にも、この流入がやむことはなく、外国人の定住化が進んだ。また、出生率の低下による総人口の減少が2005年からはじまったことにより、日本人を補完する存在として外国人が注目されるようになった。以上の動向を受けて、1990年代半ばから社会学の分野を中心に、日本に居住する外国人の就労のみならず、生活のさまざまな局面に関する研究が出はじめるようになり、今日までに多くの優れた成果がある。

(2) 国際結婚研究に関しては、多くの蓄積が社会学においてみられる。しかし、既往研究では、概して、結婚というイベントを中心に、その前後を含む短い期間に関心が集中する傾向があった。近年、国際結婚家族の子どもの成長にともない、彼らの教育問題にも注目が向けられているが、結婚から子どもの誕生や成長に至る各段階を念頭に置いた家族形成という観点からの取り組みは概して弱い。

(3) 社会学における既往研究は、特定の対象地域における面接やアンケート調査を踏まえた小規模サンプルによる研究がほとんどであり、日本国内の地域差を念頭に置くという視角が欠落している。他方、地理学における国際結婚をめぐる研究は、ようやく近年はじまった。しかし、国際結婚を生む重要な背景として、性比の空間的不均衡をはじめとする地理的要因を重視し、それをコンピュータマッピングを駆使して「可視化」する視点は、大いに注目される。

(4) 本研究は、上述した社会学分野における既往研究の課題を踏まえ、それを打開すべく、国勢調査の個票データを用いた定量的分析と、その知見を踏まえた聞き取り調査を主とする定性的分析を併用して、現代日本における国際結婚カップルの家族形成についての包括的な研究を実施した。

## 2. 研究の目的

(1) 2010年国勢調査の個票データを用いた、都道府県や市町村といった空間的スケールでの家族形成の各段階ごとの定量的分析を行うことが第一の目的であった。従来、わが国における国際結婚カップルに関する研究は、聞き取り調査によるものがほとんどであった。このような方法の意義は理解できるが、既往の成果が日本全国のなかでどのような位置づけをもっているかの評価が必ずしも簡単ではなかった。こうした問題点を打開するには、大量のデータを分析対象とするのが望ましい。この意味で、国勢調査の個票データは最高のデータソースであるといえる。

(2) 国勢調査の個票データの分析に基づいた聞き取り調査を中心とする定性的分析を行うことが第二の目的であった。個票データの分析を通じ、国際結婚件数は増加したが、既往研究において詳しい調査がまだ及んでいないと判明した外国人ムスリムと日本人女性の国際結婚家族を取り上げ、家族形成についての調査を実施した。これにより、現代日本における国際結婚カップルをめぐる家族形成に関する全体的な様相を明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

### (1) 既往文献のレビュー

国際結婚カップルの家族形成に関する内外の既往文献のレビューを行い、これまで得られている成果に関する到達点と問題点の整理を行った。

### (2) 定量的分析

総務省統計局から、2010年国勢調査個票データの提供を受け、2005年～2010年における外国人の目的地選択、および国際結婚カップルの家族形成に影響を与える移動パターンを、ロジットモデルを用いて分析した。

マックマスター大学(カナダ)のカオ・リー・リアウ名誉教授と共同研究を行い、アメリカ統計局が実施するアメリカン・コミュニティ・サーベイ(以下ACS)の個票データを用いて、「戦略としての国境を越えた結婚」についてロジットモデルを用いて分析した。

### (3) 定性的分析

国際結婚カップルの家族形成において大きな課題である子どもの教育問題に焦点を当てて、関東地方と東海地方に居住する外国人ムスリムと日本人女性の国際結婚家族におけるイスラーム教育についての聞き取り調査を実施した。

愛知県に居住する父トルコ人・母日本人の国際結婚家族におけるイスラーム教育とトルコ語教育に関する人的資本と社会関係資本の関係性についてインタビュー調査の結果をまとめた。

国際結婚と日本人アイデンティティの関連性について、国際結婚の当事者たちを対象にインタビュー調査を実施した。

## 4. 研究成果

### (1) 既往研究のレビューによる研究成果

国際結婚の圧倒的多数を占める夫日本人・妻アジア人の組み合わせにおいて、1990年末ごろまでの既往研究では、アジア人妻は「農村花嫁」という呼称にイメージされる「弱者」「犠牲者」として描かれることが多かったが、2000年代に入ると、「結婚移住女性」という呼称を用いて、主体的な行為者としてとらえ

る研究が増加していることが明らかになった。しかし、一方で、国際結婚カップルの家族形成における地域差を考慮した研究が進んでいないことが浮かび上がった。

### (2) 定量的分析による研究成果

2010年国勢調査外国人個票データに基づいた定量的分析の結果、新規流入移動に関しては、労働市場関連要因が最大で、同一民族集住要因がこれに続き、国際結婚機会要因は最小であった。一方、国内移動に関しては、労働市場関連要因と同一民族集住要因の説明力がほぼ拮抗しており、国際結婚機会要因の貢献は無視しうるほどに小さかった。また、新規流入移動と国内移動のいずれかについても、サービス業の吸引力が製造業よりも大きいことが明らかになった。わが国在住の外国人に関する既往研究では、特に日系ブラジル人と製造業雇用の結びつきが大きな注目を浴びてきたが、この知見はその見解の見直しを迫るものである。

外国人の目的地選択が多様になり、分散が進んでいること、あるいは、大都市圏内における郊外化が進展していることを示唆する知見がいくつか得られた。ただし、目的地選択に際して、同一民族人口の集住が依然として大きな吸引力をもっている。

日本の総人口の減少や経済危機にともなう外国人人口の減少は、本研究で行った多変量解析という枠組みのなかでは、目的地選択にはっきりとした影響を与えていないことがわかった。一方、国際結婚の減少は、三世同居が多い東北地方への外国人女性の「嫁」としての流入を示す変数の説明力の後退につながっているという知見が得られた。

ACSの個票データを用いて、在米中国人、フィリピン人、ベトナム人の「戦略としての国境を越えた結婚」について分析した結果、相対的に生活水準が低く、将来の展望が開けない国で生まれた女性にとっての結婚戦略とは、その女性の若さと、夫がもつ米国民権を通して得られる米国での永住権とを交換することである。このような結婚戦略は、1990年代以降、特に2000年代以降に広く行われており、偽装だと考えられる結婚は広くみられる問題であることが明らかになった。

### (3) 定性的分析による研究成果

国際結婚の当事者たちを対象にインタビュー調査を実施した結果、日本社会には血統と文化における日本の両義的位置やジェンダー格差が根強く残存しており、日本社会が歴史的に行ってきた外国人配偶者に対する排除と包摂を繰り返しながら、日本人アイデンティティを守ろうとしていることがわかった。ただし、外国人配偶者を日本人として包摂、非日本人として排除といった二項対立

をなしているのではない。これらの両極の間には多様な段階を含んでおり、いずれにも含まれない周縁化された人々や、社会的排除の結果として、あるいは社会的排除を避けるために潜在化する人々も存在することを忘れてはならない。

日本における「国際結婚」は、国籍が異なる者同士の結婚を意味し、国籍の違いに重点が置かれているが、現実の日本社会では血統の優位性ゆえの外国人配偶者の排除や包摂が行われている。特に、外国人配偶者がアジア出身で、女性で、かつ家父長制が残存する東北地方の農村地域に居住している場合には、夫方親族やコミュニティ内で、国際結婚カップルから生まれた子どもを「完全な日本人」として育てようとする力が強く働く傾向がみられる。その背景には、文化の序列、国家間の経済格差、ジェンダー格差が存在している。日本では重国籍を認めていないからといって、国際結婚カップルの子どもたちが、たとえ潜在的にはあられ、保持している複合的アイデンティティや複合的文化を否定することがあってはならない。多文化社会という言葉を目にして久しいが、本当の意味での多文化社会の構築に向けて、お互いの違いを認め合う社会づくりが、今の日本の課題のひとつであることが、本研究から浮かび上がった。

外国人ムスリムと日本人女性の国際結婚カップルを対象に実施したインタビュー調査から、関東地方は東海地方よりも5~10年ほど早く、1980年代前半から外国人ムスリムが流入しているため、日本人女性との結婚や日本での家族形成、および子どものイスラーム教育を中心とする家族の問題も早くから生じてきたことが明らかになった。国際結婚カップルの家族形成を研究するうえで、地域差を考慮することが不可欠であることを確認した。

外国人ムスリムと日本人女性の国際結婚家族におけるイスラーム教育についての聞き取り調査では、家庭・地域・学校といった空間軸と、子どもたちの過去・現在・未来といった時間軸、これら2つの概念を柱として、名古屋市のムスリム家族の教育の現状と課題を分析した。そして、その問題の打開策を模索する日本人の母親たちによる自助活動を取り上げ、父親と母親、双方の文化を継承できる環境づくりへの取り組みを考察した。

父トルコ人・母日本人の国際結婚家族におけるイスラーム教育とトルコ語教育に関する人的資本と社会関係資本の関係性について考察した。愛知県のトルコ人コミュニティは、出生地、社会経済的地位、支持する宗教指導者など複合的要因によって形成されている。本研究対象の国際結婚家族は、それ

それぞれのコミュニティから異なる社会関係資本を得ている。人的資本に恵まれない家族であっても、人的資本と社会関係資本が補完関係にあるコミュニティにおいては、イスラム教育とトルコ語教育が維持されていることが明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

Takeshita, Shuko, 2015, "Social and Human Capital among Japanese-Turkish Families in Japan," *Asian Ethnicity*, 17(3): 456-466.

DOI: 10.1080/14631369.2015.1062071

査読有

Takeshita, Shuko, 2015, "Present Condition and Issues of Education for Muslim Children of Intermarriage in Japan: A Case Study of Self-help Educational Activities by Japanese Mothers," 『愛知学院大学人間文化研究所紀要』, 30: 33-42. 査読無

Hanaoka, Kazumasa, Yoshitaka Ishikawa, and Shuko Takeshita, 2015, "Have Destination Choices of Foreign Residents Contributed to Reducing Regional Population Disparity in Japan? Analysis Based on the 2010 Population Census Microdata," *Population Space and Place*, Published in Wiley Online Library.

DOI: 10.1002/psp.1975. 査読有

花岡和聖、Kaw Lee Liaw, 2015, 「賃金の規定要因からみた日本生まれの在米日本人の特徴: アメリカン・コミュニティ・サーベイを用いた分析」『人文地理』67(1): 41-56. 査読有

石川義孝, 2014, 「日本の国際人口移動: 人口減少問題の解決策となりうるか?」『人口問題研究』70(3): 244-263. 査読有

石川義孝、竹下修子、花岡和聖, 2014, 「2005-2010年における新規流入移動と国内移動からみた外国人の目的地選択」『京都大学文学部研究紀要』53: 293-318. 査読無

Nishihara, Jun, Yoshitaka Ishikawa, Hitomi Hiratsuka, and Yukari Kawasaki, 2013, "Current Conditions and Geographical Background Factors of International Marriages: A Case Study

of Japan's Tokai Region," *Geographical Review of Japan Series B*, 85(2): 57-73. 査読有

石川義孝, 2013, 「国勢調査のデータを日本在住の外国人の研究に利用する」『ESTRELA』2: 30-33. 査読無

石川義孝, 2012, 「外国人の国内移動」『統計』4: 10-15. 査読無

[学会発表](計10件)

Ishikawa Yoshitaka, "Destination Choice of New Immigrants to Japan in the Context of Incipient National Population Decline," Global Political Economy and Migration Research, Symposium, October 6<sup>th</sup>, 2015, University of Bristol, Bristol (UK).

Takeshita, Shuko, "Intermarriage and Japanese Identity," International Conference of International Association for Intercultural Studies, July 17<sup>th</sup>, 2015, Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong (China).

Takeshita, Shuko, "Inheritance of Language and Religion among Turkish-Japanese Muslim Families in Japan," 22<sup>nd</sup> International Congress of International Association for Cross-cultural Psychology, July 18<sup>th</sup>, 2014, University de Reims, Reims (France).

竹下修子, 「ムスリム家族における宗教と言語の伝承: 父トルコ人・母日本人の国際結婚家族の事例研究」異文化間教育学会第35回大会, 2014年6月8日, 同志社大学(京都市)。

石川義孝、竹下修子、花岡和聖, 「2005~2010年における新規流入と国際移動からみた外国人の目的地選択」日本人口学会第66回大会, 2014年6月15日, 明治大学駿河台キャンパス(東京都)。

Takeshita, Shuko, "Turkish Communities and Islamic Education for Children in Japan," Asian Association of Social Psychology 10<sup>th</sup> Biennial Conference, August 24<sup>th</sup>, 2013, University Gadjah Mada, Yogyakarta (Indonesia).

Ishikawa, Yoshitaka, "Significance of Mapping Foreign Residents in Japan," International Geographical Union Kyoto Regional Conference, August 8<sup>th</sup>, 2013,

Kyoto International Conference Center  
(Kyoto).

石川義孝、「日本在住外国人の地図帳作成  
の意義」『日本地理学会春季学術大会』、  
2013年3月30日、立正大学熊谷キャンパ  
ス（東京都）

Ishikawa, Yoshitaka, "Importance of  
Mapping Foreign Residents in Japan,"  
Community-base GIS, November 26<sup>th</sup>, 2012,  
Academia Sinica, Taipei (Taiwan).

Hanaoka, Kazumasa and Shuko Takeshita,  
"Fertility Rate and the Background  
Conditions of Cross-border Marriage  
Couples in Japan: An Analysis using  
Census Microdata Samples," British  
Society for Population Studies Annual  
Conference, September 10<sup>th</sup>, 2012,  
University of Nottingham, Nottingham  
(UK).

[図書] (計4件)

Takeshita, Shuko, 2016, "Intermarriage  
and Japanese Identity," Ernest Healy,  
Dharma Aranachalam, and Tetsuo Muzukami  
eds., *Creating Social Cohesion in an  
Interdependent World: The Experiences  
of Australia and Japan*, Melbourne:  
Palgrave Macmillan, 175-187.

Takeshita, Shuko and Kazumasa Hanaoka,  
2015, "Turkish Communities and Islamic  
Education for Children in Aichi  
Prefecture," Yoshitaka Ishikawa ed.,  
*International Migrants in Japan:  
Contributions in an Era of Population  
Decline*, Trans Pacific Press, 195-212.

Hanaoka, Kazumasa and Shuko Takeshita,  
2015, "Fertility Outcomes and the  
Demographic and Socio-economic  
Backgrounds of Three Types of Couples:  
Cross-border, Immigrant, and  
Native-born Couples," Yoshitaka  
Ishikawa ed., *International Migrants in  
Japan: Contributions in an Era of  
Population Decline*, Trans Pacific Press,  
44-73.

Yoshitaka Ishikawa ed., 2015,  
*International Migrants in Japan:  
Contributions in an Era of Population  
Decline*, Trans Pacific Press, 313.

[産業財産権]

出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹下修子 (TAKESHITA, Shuko)  
愛知学院大学・文学部・教授  
研究者番号：60454360

研究分担者

石川義孝 (ISHIKAWA, Yoshitaka)  
京都大学・文学研究科・教授  
研究者番号：30115787

研究分担者

花岡和聖 (HANAOKA, Kazumasa)  
東北大学・災害科学国際研究所・助教  
研究者番号：90454511